

令和2年度 学校評価報告書 市教委提出用 三郷市立立花小学校 校長 大河原正行 印							
評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え	
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。	3.29	3.60	『「感じる心」でともに、高める立花小へ！できた、わかった！がいつぱいの学校へ』を掲げ、全児童・全職員が一体となって、子どもたちが笑顔で力一杯学べる学校を作り上げようとしている。また、「時を守り・場を清め・礼を正す」の具体目標を示し、HP等で成果を日々伝えている。	
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.43	3.90	毎学期実施の職員による学校評価と2学期末の児童保護者の学校アンケートをもとにPDCAサイクルでの見直しを行った。また学級経営案の作成・実行・評価・改善を行ない、学校教育目標の実現を目指している。	
		3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.57	3.90	3年から6年生までの総合的な学習の時間にプログラミング学習を位置づけ系統的に論理的思考力が育成できるようにした。また、総合的な学習の時間以外の教科においても、プログラミング教育を活用している。また三郷工業技術高校と連携した授業も行うことができた。また、読書活動に力を入れ、読む力の育成を図っている。	
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。	3.36	3.50	積極的にICTを活用し、子どもたちにとって将来的に必要な「情報活用能力」「論理的思考力」を育成させている。また、豊かな読解力の育成をめざし、研修に取り組んでいる。また児童の学ぶ意欲を高め、検定・コンクールへの挑戦を行った。	
	資質向上	5	学校は、教職員の服務規律を確保するための取組をしている。	3.57	3.90	月1回の定期的「倫理確立委員会」では、校務分掌ごとにテーマを設定し、具体的な事例を出しながら、当事者意識を育成できるように実施している。また、情報提供を随時行い、教育公務員としての自覚を高めるようにしている。	
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.93	3.90	校内研修28回、校内授業研究会4回、研究授業4回実施した。研究授業の指導案検討を全教員で行い、組織的に継続性のある研修を行っている。また管理職も積極的な、授業参観を行い、必要に応じて、職員への個別指導を行っている。	
授業等の状況	学力向上	7	学校は、児童生徒の実態を把握し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.43	3.90	新型コロナウイルスの影響により、児童間での話し合い活動では、机の間隔を広くするなど工夫をしながら実施していたが、通常より少なくなってしまう。しかし、教師間で学び合うことにより主体的に考えることができる導入や発問を工夫することで、深い学びができるようにしている。	
		8	学校は、日々の授業等を通して、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.57	3.90	算数では単元前にレディネス調査を行い、子供たちのつまづきを把握し、授業を行うことで、確実に基礎基本が定着できるようにしている。またたばなタイムの活用や校長賞テストの取組により基礎基本の定着を目指している。学力向上は、本校の最重要課題であり、全職員で根気強く取り組んでいる。	
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.64	4.00	定期的に「授業の心得」の集計をし、常に意識し、指導に活かすようにしている。毎週行っている生徒指導会議において、気になる点・改善すべき点について全職員で話し合い、共通理解を図っている。	
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。	3.14	3.20	高学年は落ち着いた授業が展開されているが、学年が下がるにつれて、自分勝手な行動をする児童への対応に時間が割かれている。例年以上に指導に時間がかかってしまっている。年間生活目標の「時・場・礼」の指導を大切に、落ち着いた態度の育成を図っている。	
	読書のまち三郷	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。	3.64	4.00	年度初めに司書による図書館利用についての時間を確保することにより、1年間スムーズに図書館利用ができています。資料集めなど教師や児童のレファレンスに対し司書による的確な提案がなされている。月1回の司書との作業計画会議で話題になったことを教職員に知らせたり、お知らせを毎月全教職員に配っている。	
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。	3.64	4.00	毎週校長クイズを出題し、その出題に関する書籍を昇降口に置き、貸し出しもしている。校長クイズの解答用紙を校長が目を通し子どもたちに返却をし、読書に親しむ入り口になっている。読書ビンゴなど子供たちが主体的に取り組める読書活動を実施している。学校多読賞を設け、校長室での表彰を行うことで、積極的に読書活動に取り組む児童が増えている。	
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.21	3.40	給食主任を中心に食の大切さを掲示・呼びかけを行っている。本校独自の完食週間の取組も定着できている。しかし、好き嫌いのある児童にとっての対応を考えていく必要がある。特に保護者への理解を得られるよう完食週間の意義を周知していかなければならない。学校のみでの取組で終わらず、家庭の協力を得る工夫をしていきたい。	
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。	3.43	3.80	新型コロナウイルスの対応をしながら、密にならないように週1回の業前活動の元気タイムを実施した。本校の課題解決を図るために、運動発表会、持久走大会、縄跳び大会を通して計画的に取り組んでいる。授業では、密にならず、体の接触が少ない種目を中心に行っている。	
	道徳の推進	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.29	3.50	道徳の授業を進め方を全校で統一している。また、授業で使用する「場面絵」や「カード」を学年ごとにストックしてあるので、それを活用し授業展開を工夫することができた。今年度は、新型コロナウイルスの影響で保護者や地域の方々への道徳の授業公開をすることができなかった。	
		16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.36	3.60	小規模校であり、外国籍の児童も多いため、他者の気持ちを考えて行動できる児童が多い。いじめ撲滅運動やコロナへの対応など、道徳的な実践意欲と態度が自然に培われている。校長による、人権意識の高揚に向けての読み聞かせなども行っている。	
	指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.50	3.90	職員・児童共に、共通行動プランとして「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本理念として取り組んでいる。特に「1分前行動」と「挨拶」については、教師も意識をし、「チャイム授業」と「主体的挨拶」を常に意識している。
			18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。	3.71	3.90	教師が範となる行動をとることとともに、挨拶ができていない場面では繰り返し指導していくことを続けている。登校時には、教職員の姿を見つくと遠くから大きな声で挨拶をする児童も多い。また、授業の開始と終了での語先後礼も定着している。
19			学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.36	3.10	教職員が美しい言葉遣いを心がけている。職員室の入室時など、できていないときはその場で直すことを徹底している。しかし、ゲームの影響などで不適切な言葉を使用する児童も多くなっている。学校のみでなく家庭との連携をさらに図っていく必要がある。	
生徒指導		20	学校は、児童生徒の不登校・非行問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.64	4.00	週1度の生徒指導会議で問題行動や子どもたちの小さな変化についても全職員での共通理解を図るようにしている。休みがちな児童に対しては、担任のみでなく教育相談主任も週に一度の家庭訪問を実施している。また不登校については、スクールカウンセラーや児童相談所などの外部機関との連携も図っている。	
		21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.64	4.00	毎月「教育相談日」を設け、保護者の悩みなどへの対応を行っている。特別支援コーディネーターが中心となり、必要に応じ、保護者との面談を行っている。また、特別支援教育の視点に立った学級経営を心がけ個別の支援を保護者と相談しながら行った。	
		22	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合う指導をしている。	3.79	3.90	月に1度「楽しい学校アンケート」を実施し、児童からの思いをつかむようにしている。いじめ撲滅集会や縦割り活動などを通じてお互いの良さを児童自らが認め合うことができる場面を意図的に設けている。また昼の放送では学年を越えた子供同士の感謝、善行等の気持ちの伝えあいを行っている。	

状況	安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.64	4.00	救命救急講習では、具体的な事故を想定し、一人一人がどのように動くのかをきめ細かく設定し訓練を行っている。また今年度は改修工事のため避難経路の見直しを工事の進捗状況に合わせて行っている。地震に対する避難訓練は様々な活動時間で実施することで、素早い第一次避難行動ができています。
		24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。	3.71	3.80	施設事故0を目指し、定期的な安全点検や安全指導を行っている。今年度は大規模改修を行っているが危険箇所については素早く修繕を行った。工事箇所についての安全確保も施工会社と連携して行っている。管理職による日々の点検も欠かさず行っている。泉地区からの通学路の安全確保が課題であり、現在外部機関に安全確保の対応を要望している。
	環境整備	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。	3.29	3.50	高学年が低学年に掃除の仕方を丁寧に教えながら一緒に清掃活動を行う機会を設けている。「無言清掃」が定着している。タイムリーな掲示を心がけているが、2学期以降は工事の関係で十分な掲示活動ができていない。
		26	学校は、教職員が児童生徒と向き合うため、働き方改革を進めている。	2.71	3.30	勤務時間の管理を行い、勤務時間の多い職員には声かけを行っている。ICTの活用や会議時間の短縮などを行っているが、コロナ対応に改修工事への対応（教室の変更や特別教室が使えない等）で時間的な余裕が作り出すことが難しかった。
	家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。	3.64	3.80	学校便り、学級便りなど定期的に発行することが出来ている。日々の学校生活については、ほぼ毎日ホームページを更新することで情報発信に努めている。学校だよりによりホームページのQRコードを載せるなどの工夫も行っているが、保護者アンケートの結果、閲覧している家庭数が少ないのが状況である。
		28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。	3.75	3.80	今年度は新型コロナウイルスの感染予防のため「親の学習」や校内での読み聞かせなどを実施しなかった。昨年まで発行していた「学校応援団便り」も今年度は休刊している。しかし、学習ボランティアで通年支援していただいたり、校庭の樹木を定期的に伐採していただいている。スクールガードの方々には少人数ながら毎日交代で出てくれて助かっている。
		29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。	3.43	3.60	少人数のためPTA活動が保護者の負担になりすぎているため、PTA活動の精選を行っているが学校外の活動の負担も軽減させていきたいが、十分ではない。校内では資源回収や地域のパトロールに職員も協力している。